



シモマツチの 校長随想

～教育は過去からの贈り物、そして未来へのメッセージ～

下町壽男 盛岡中央高校附属中学校副校長

第23回

合理的配慮を考える

イラスト1



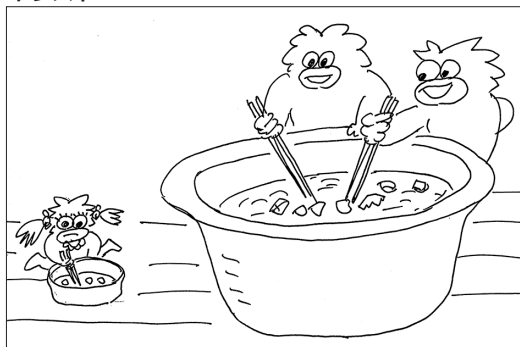
□ 合理的配慮の基本的な考え方

こんな絵を描いてみました。

しも♡まちこ、しもまっちゃん、しもまにこふの3人が鍋を囲んでいます（イラスト1）。しも♡まちこは箸が短くて食べられないですね。どうしたらいいでしょう。一つの考え方はこうです。

しも♡まちこの分を別の鍋にとって、食べてもらうのです（同2）。これは特別な人

イラスト2

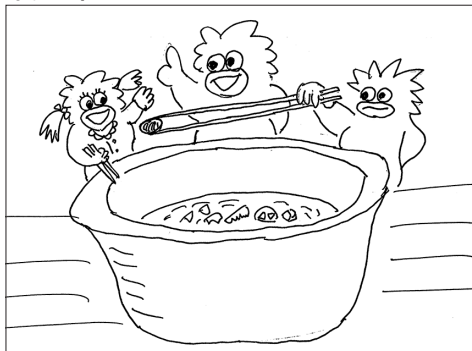


間を、特別な場に隔離して行う特殊教育の考え方です。食べさせることを目的とするならば、その目的は達成されます。でも鍋をつつくというのは、空腹を満たす以外にも様々な意味があります。皆でつつくことで、交流が生まれたり、それによって何らかの発見が生まれるかもしれません。

次は、全員が同じ場にいるのですが、しも♡まちこに対して、長い箸を持っている人が食べさせてあげています（同3）。助け合いという視点に立てば、良いことのようにですが、何か「ほどこし感」があり、しも♡まちこの自立が促されません。

ではイラスト4はどうでしょう。しも♡まちこの短い箸を長い箸を長

イラスト3



句が出る
ことはあ
りませ
ん。むし
ろ文句を
言うのは
先生方や
保護者で
す。せっ
かく時間

私がある高校の校長をしていたとき、支援が必要な生徒の入学志願がありました。そのとき私は教育委員会などと相談して、入試の時間延長の措置をとりました。入学後も考査の時間を配慮したり、タブレットで板書を撮ることも許可しました。

もちろん、そのことによって生徒から文

□ なにが「平等」か

い箸にかえてあげました。これが合理的配慮です。個々の持つ差異を埋めて同じ土俵に立つための前提を担保するということです。

イラスト4



私は
支援を
要する
生徒へ
のタブ
レット
使用を
決めた
とき、

延長して「あげた」のに居眠りしていたぞ、とか、授業中にタブレットのシャッター音がすると他の生徒の気が散るのではないかとか、あるいは彼だけ週末課題の量を減らすのは不平等だ、等々。また、合理的配慮の名の下に、やつてもらって当たり前という考えは親のエゴだと言う保護者もいます。

でも私はこう考えます。タブレットを持つことは眼鏡をかけることと同じではないか。不平等だという批判は、何であなただけ眼鏡をかけるの、自分だけよく見えるのはずるいと言ひ張るのと同じだと思うのです。

職員に「この機会に、その子だけでなく、全員にスマホやタブレットを認めることを考えてみてはどうだろう。そのことによって授業パラダイムが大きく変わるかもしれない」と提案しました（却下されました）。

合理的配慮とは、人への優しさを持つこと。それは同時に、社会の不合理や理不尽に目を向けることでもあります。

そして、さらに言うなら、合理的配慮の理念は、障がい者という枠組みを越えて、もつとダイナミックな変革を促すことにもつながると私は感じています。

例えばテクノロジーを積極的、戦略的に用いることで、多様性の壁を乗り越えるだけでなく、授業などに新たな価値やイノベーションを生み出すことにつながるのではないかと思います。

眼鏡は防壁の役ばかりでなく、私たちをちゃんと見るためのレンズにも変わるのだ。って、ドリカムのまとめちゃいました（笑）。